



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

No.536

2017

3

自分から
動き出すことが大切!

九州学院高等学校3年生
YMCAランゲージスクール在籍
海北 三奈さん



世界で何が起きているかを学びたい

レッスンに通い始めてすぐの高校2年の冬、大きな転機が訪れました。日本YMCA同盟が主催する英語を学ぶ中高生のためのプログラム「English Camp for Global Leadership (ECGL)」への参加です。ECGLでは3泊4日の期間中、会話はすべて英語。コミュニケーションの楽しさを知り、積極的に世界に目を向けて自ら考え行動できるグローバルリーダーを育成することを目指す合宿スタイルのプログラムです。静岡県の国際青少年センターYMCA東山荘で開催され、毎年、全国から中高生が集まります。

「テーマは“平和”や“環境”など地球規模の課題。初めて会う人たちとディスカッションをしたり、自分のことを1分間で話す“いきなりスピーチ”に挑戦したり…。もちろん、話すのはすべて英語です。その場に慣れることが精一杯な私と違い、参加者は皆、積極的に英語もペラペラ。発音もきれい。英語が話せる方だと思っていた私は、見事に打ちのめされました。でも、参加をしたことでも刺激を受けたし、悔しい思いをしたからもっと勉強して次こそは!という気持ちになったんです」。同時に気づいたのは、一生懸命話そうとすると相手は聞いてくれるということ。「文法が間違っている、自分からもっと積極的に話してみたらいいんだと吹っ切れました」とにっこり。勉強を続けて昨年12月に行われた同プログラムに2年連続で参加しました。

自ら話せば楽しくなる英語

自分のことをどちらかと言うと、控え目な性格だと思っているという三奈さん。「留学経験のある母からは、“授業に出ても自分の意見が言えなければ、参加していないのと同じ。海外では自分から主張することで、信用が得られるし、友だちができていくもの”と聞きました。ですから、積極性の大切さを教えてくれたECGLはとて素晴らしい経験になりました」。

YMCAでの英会話レッスンは週1回。社会人に混じって同じ英語レベルのクラスで学んでいます。「レッスンは全部英語。日常の出来事や時事ニュースなど多彩な教材でスピーディーに進みます。“もっとこういう表現もあるよ”など、実用的な英会話を教えてもらっています。今は英語を学ぶことがとっても楽しいんです!」とハキハキと語ってくれました。

海外で、誰かの役に立つ仕事をしたい

今春、高校を卒業後は、大分県の立命館アジア太平洋大学に進学が決まっています。やりたいことが見つからなくて焦っていた時期もあったという三奈さん。

「海外のニュース番組を見ているうちに、温暖化やテロなどの問題に興味を持つようになりました。大学では貧困のことをはじめ、世界のことをもっと学びたい」と思っています。アジア系の人たちが多いので、多文化にふれることができるのも楽しみです。留学も経験したい。将来は英語力を活かして、海外で貧困にあえぐ人たちの役に立てる仕事をしたいです」と、新たな世界への期待に胸を膨らませています。



2016年度 English Camp for Global Leadership の様子

幼い頃から身近だった英会話

“My dream is to help people living in poverty.”

海北三奈さんは、叶いたい夢の一つとして、「貧困状態にある人々を救えるようになりたいんです」と瞳を輝かせて話してくれました。3歳で日本に帰国するまで、両親の仕事の関係でアメリカで過ごした三奈さん。「でも、日本で暮らすうちに英語を忘れてしまいました」と笑います。

これまでも英会話を学ぶなどして、英語が身近にある生活を続けてきました。しかし、文法を学び始めるようになると、自信をなくして話せなくなった時期があったそうです。「自分がきちんと話せているか、不安を感じるようになってしまっ」。

できると思っていたのに悔しい思い。それをバネに

高校生になり将来を意識するようになった三奈さんは、国際関係の仕事に就きたいと考えるようになりました。「それならもっと英語を使えるようにならなければ」と思うように。より学びを深めたいと自分でスクールを探し、YMCAの英会話レッスンに通うことを決めたそうです。

Pickup

五ヶ瀬2泊
スキーキャンプ
1月5日(木)~7日(土)



ゆきっこキャンプ
1月7日(土)~9日(月・祝)

スケート
デイキャンプ
2016年12月26日(月)
~29日(木)



Information 行こう 見よう 深めよう

守ろういのち 防災まつり2017

防災
×
体験

ながみねファミリーYMCAと託麻南校区8町内自治会の共催で防災プログラムを実施します。楽しみながら、防災について学び、体験しませんか？

日 3月26日(日) 9:30~13:00

場 ながみねファミリーYMCA(熊本市東区長嶺南3-1-107)

費 無料(一部有料のプログラムもあります)

内 熊本地震支援報告、防災訓練、消火体験、災害伝言体験、特殊車両見学、パトカー試乗体験、ロープワーク、非常食の試作・試食、スタンプラリー、避難所体験、食バザー、くじ引き、ゲームコーナー他

共催 ながみねファミリーYMCA、ひがしウィズメンズクラブ、託麻南校区8町内自治会自主防災クラブ

協力団体 日本赤十字社熊本県支部、熊本市消防局東消防署・小山出張所、熊本東警察署・託麻交番、NTT西日本、熊本県立大学、託麻南小学校、熊本市東区役所、熊本市社会福祉協議会東区事務所、マックスバリュ長嶺店、肥後銀行長嶺支店

問 ながみねファミリーYMCA TEL 096-385-0676



明るく前に進もう 熊本地震1周年の集い

復興
×
集い

熊本地震発災から一年。創造的復興を目指して、明るく前に進もうをテーマに記念行事を開催します。

日 4月15日(土) 場 御船町スポーツセンター(予定)

第1部 映画上映会

時間 10:00~12:00

第2部 シンポジウム

熊本地震復興支援に関わっているNGO関係者、有識者、ジャーナリスト、YMCAスタッフが登壇します。

時間 13:00~15:00

テーマ 熊本地震で何が求められたか?これから何を行っていくのか?

内 ①地震活動報告 ②パネルディスカッション ③ワークショップ

第3部 熊本地震支援ボランティア感謝の集い

地震の影響を受けた地元商店街、熊本市中心市街地商店街からの出店も予定しています。どなたでも参加できて、食事やショッピングが楽しめる時間です。

時間 16:00~18:00

問 熊本YMCA本部事務局 TEL 096-353-6397

時間・内容は変更になる可能性があります。詳細は後日、WEBサイトにてご案内します。

阿蘇に笑いを、笑いから元気を 笑い支援プロジェクト

笑い
×
感動

阿蘇地域の熊本地震被災者支援を目的に、阿蘇YMCAにて、「熊本笑顔で笑い支援プロジェクト」を実施します。

地震後、看護師を派遣し、阿蘇YMCAを拠点に地域の被災者の健康相談などの支援活動を行った一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワークと、中央共同募金会ボラサポ九州、熊本YMCAが協力。熊本県阿蘇市・南阿蘇村などを中心とした被災者や仮設住まいの方々を招待して全3回開催します。ものまねやマジックショー、ダンス、音楽など多くの出演者が被災された皆さんに笑顔や感動をお届けします。

日 第1回 終了

第2回 3月12日(日) 14:00~

第3回 3月31日(金) 14:00~

※出演者は毎回異なります。

場 阿蘇YMCA(阿蘇市車帰358)

催 一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク

共催 阿蘇YMCA

※このプロジェクトは中央共同募金会ボラサポ九州の支援により実施されます。

問 阿蘇YMCA TEL 0967-35-0124



2月19日(日)に実施した第1回の様子。バルーンアート芸人のトークに会場は大笑い

地域支え合い運動3ヵ年計画 キックオフプログラム

支援
×
交流

YMCAに連なるボランティア会員が、被災者に寄り添い復興支援活動に取り組みます。活動を通して会員と被災者やコミュニティとの交流の機会とします。

日 3月20日(月・祝) 9:30~13:00 場 阿蘇YMCA、的ヶ石キャンプ場 及びその周辺

内 YMCA会員とその家族、友人

内 阿蘇地域の復興支援ボランティア活動及び、阿蘇YMCAボランティアセンター支援活動

費 大人1,000円 子ども(小学生以下)500円 バス利用500円

主催 阿蘇YMCA・野外教育運営委員会 日 3月16日(木)まで

問 阿蘇YMCA TEL 0967-35-0124

※3月12日(日)は益城町木山と御船町南木倉の仮設住宅にて、支援活動を予定しています。

人間力育成 第22回新入社員ボランティア入門講座

学び
×
体験

車いすで生活を送る障がいのある講師により行われる企業合同の研修プログラムです。食事介助と車いす体験を軸に、今後の社会人生活において必要となる、自分とは違う立場での見方や考え方を学びます。

日 4月5日(水)・7日(金) 12:00~14:30 場 中央YMCA(熊本市中央区新町1-3-8)

費 一人2,000円(フィランソロピー協会会員企業) / 2,500円(非会員企業) ※講習料、昼食代を含みます。

※企業・団体への講師派遣やこの他の福祉体験講座の実施についてもご相談に応じます。

問 YMCAフィランソロピー協会

事務局(熊本YMCA)

TEL 096-353-6397



R | E | P | O | R | T

楽しく参加して募金活動 **チャリティプログラム**

今年度も各YMCAでチャリティプログラムを開催。中央YMCAは1月15日(日)、みなみYMCAとむさしYMCAは22日(日)、ながみねファミリーYMCAでは1月14日(土)～20日(金)にかけてスポーツやバザーなどを通じたプログラムが行われました。

クラフト、フェイスペインティングなど毎年様々な内容が好評のみなみYMCAでは、「子どもたちが楽しく参加できる、今までにないプログラムを行いたい」

と、日本美術さんの協力のもと、今年初めて食品サンプルづくりに挑戦。年長～小学生の子どもたち40名、保護者を含め約70名が参加しました。トッピングの材料やソースを選ぶ時には皆、真剣な眼差し。それぞれ好みの“パフェ”が完成すると、そのでき栄えに満足した様子でした。

これらの参加費による益金は国際協力青少年育成年末募金に充てられました。

熊本地震 **就職支援×進学応援プロジェクト**

熊本YMCAが地域支え合いセンターを運営する益城町と御船町の仮設団地の住民の皆さんを対象に、就職支援や進学、資格取得等に関する相談会を開催しました。

キャリアコンサルタントや専門スタッフが仮設団地を訪問。1月26日(木)に行った益城町木山での相談会では、「なんとか仕事をしなければと思っている」「介護の仕事をしているので、介護福祉士実務者研修を受けたい」などの相談が寄せられました。

この相談会は学校法人で行っているキャリア支援

の一環として、社会人を対象に福祉関連の資格取得等のサポートを通して、再就職の支援を行いたいと企画したもので、今回はYMCA学院の生涯学習講座で行う熊本県委託事業「介護福祉士養成科」(受講料無料)の案内も併せて行いました。

今後は、健康スポーツ科の百歳体操などを取り入れるなど、YMCAの総合力を活かして相談していただける環境をつくり、就職や進学の不安に応えられる活動を継続して展開していきたいと考えています。

YMCA学院 宮本昌宣

益城町に元気を **児童福祉教育科 卒業発表会**

1月18日(水)から25日(水)にかけてYMCA学院児童福祉教育科18期生の卒業発表会を行いました。YMCA黒川保育園、国際交流会館、フードパル熊本、益城町文化会館の4会場です。今年は「あいメッセージ」をテーマに、たくさんの～愛・瞳・逢い・アイ～にふれ、気持ち・想いを伝える大切さを伝えることを目標に、創作劇・ダンス・歌などを通して表現しました。

熊本地震のため、会場の確保も難しく開催が危ぶまれた時期もありましたが、多くの皆さんの応援によ

り実現。地震直後に学生たちがボランティア活動を行った益城町での復興支援公演には地域の幼稚園や保育園の子どもたちも来場しました。

「益城の皆さんに元気を発信したい!という思いから公演を行いました。逆に益城の子どもたちや仮設団地の皆さんに笑顔と元気をもらい、支えられての公演になりました」と目を輝かせた学生たち。卒業発表会が学生へ与える影響の大きさを感じました。

YMCA学院 松藤直美

**継承すべき歴史と志**

1月30日、花岡山にて「熊本バンド」結盟141周年を記念した早天祈祷会が行われました。熊本洋学校の学生らによるこの結盟に端を発した一連の行動とその後の働きに思いを馳せ、志を確認する日でもあり、熊本YMCAの前史として認識し歴史を継承する意味があると感じています。

明治の混乱期にあって、日本の次代を切り拓くためにキリスト教を受容し、高い志を持って成し遂げようとする強い信念を得て、難局に

立ち向かっていった若者たち。その未来に立ち向かっていった先人の熱い想いと実践の中にYMCAを創り出した原動力やスピリットがあり、時代を超えて、その想いは生き続けています。

今、私たちは、大きな転換期の中にいます。これからの時代をどのように築いていくのが、私たち一人ひとりにかかっています。より良き未来を構築するために、明治の若き青年たちの志に思いを馳せつつ、私たちは、「何を継承し、何を变えていくのか」を考えていきたいと思えます。

2018年は熊本YMCA創立70周年の節目の年です。信仰に基づいた働きは共に祈ることから始まり、それを実践のエネルギーとしてきました。熊本地震の復興を願い、被災者に寄り添う活動を熊本YMCAに連なる会員、ボランティアの力を結集して進めていきます。地域



熊本バンド141周年記念早天祈祷会

の課題に向き合う時に大切なことは、次代を担うユースと共に考え行動することだと考えます。2017年度から始まる「地域支え合い運動3ヵ年計画」は地震で傷ついた心の癒しと希望を願ったものです。全ての人がかけがえのない存在として生きていける、互いを認め合い、高め合うことができる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることを目指していきます。

talanton

片柳 弘史さん
講演会

世界で一番たいせつなあなたへ
～マザー・テレサからの贈り物～

12月23日(祝)、山口県のカトリック宇部教会神父の片柳弘史さんを迎え、益城町交流情報センター「ミナテラス」で開催されたクリスマス講演会の内容の一部を紹介します。

マザー・テレサは苦しんでいる人がいると放っておけない人でした。阪神・淡路大震災の際、神戸の教会にいち早く支援の申し出がありましたが、体制が整っていないため断ったそうです。マザー・テレサが存命であれば、熊本地震の被災地にも手を差し伸べてくれたのではないのでしょうか。

会った人は「自分が一番マザーに愛されている」と感じるほど、マザー・テレサは自身の目の前にいる一人ひとりに深い愛情を注ぐ人でした。その深い愛情は、マザー・テレサが残した言葉にも込められています。

中でも、マザー・テレサの根源を現わしているのが「あなたは愛されて生まれてきた、たいせつな人」という言葉。マザー・テレサは、人に対する時はじっと瞳を見つめ、手を取り、一言ももらさないように話を聞こうとしました。温もりを感じる距離感に、誰もがマザー・テレサの愛

を実感するそうです。そのような“隣人愛”を実践するには、マザー・テレサが修道女たちに残した遺言状に手がかりがありました。手紙には、『“隣人を愛す”ということは、まず自分自身を愛することから始まる』と書かれていました。ありのままの自分を受け入れられない人は、他人も受け入れられないもの。他人を愛するときには、自分を愛するようにしか愛せません。何よりも自分自身がかけがえのない存在、かけがえのない命だと知ることが大切なのです。

「愛は家庭から始まる」「ありふれたことに、人並み外れた愛を込めなさい」など、マザー・テレサは身近な人、普段の行いにこそ愛を込めることを説いてきました。一人ひとり、神様から与えられた役割は違い、そこに優劣はありません。ありのまま愛してくれるのがキリストです。あとは心を開くだけ。信じることでできた時、救いが訪れるのです。被災地も寒さが厳し

くなります。マザーの言葉を思い出すことで、心だけでも温かく過ごしてください。



講師／片柳 弘史さん カトリック宇部教会神父
1971年埼玉県生まれ。慶應義塾大学卒業後、カルカッタでボランティア活動を行い、マザー・テレサから神父になるよう勧められる。1998年イエズス会入会。2008年上智大学大学院神学研究科修了。現在は山口県宇部市で教会の神父、幼稚園の園長補佐、刑務所の教誨師として働く。



いじめのない世界をめざそう
ピンクシャツデー

社会全体がいじめに対して高い意識を持ち、いじめの被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者」にならないことが、いじめられている子どもたちを救うことになる…と私たちは考えます。

2007年カナダ。

ピンクのシャツを着て登校した少年がいじめられました。それを見た2人の学生が50枚のピンクのシャツを友人・知人に配り、翌日登校します。学校では呼



YMCA学院日本語科

びかけに賛同した多くの生徒がピンクのシャツを着て登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。

最初にこの出来事があった2月の第4水曜日は、いじめについて考え、いじめられている人々と連帯する思いを表す1日として、今では70カ国以上で活動が行われています。

今年は2月22日(水)をピンクシャツデーとし、ピンクの服や小物を身につけて、いじめのない社会を目指す思いを伝えました。

YMCAのピンクシャツデーは文部科学省の後援を得て実施されています。

各YMCAの取組みはWEBサイトで紹介しています。



YMCA NEWS 4月号は熊本地震特別号として4月中旬に発行予定です。

わたしと聖句

マルコによる福音書12章31節

隣人を自分のように愛しなさい。

愛の基準

最近、愛の基準について考えさせられています。果たして僕は自分の子どもをちゃんと正しい愛で愛しているのだろうかという事です。

少し前のニュースで親が子どもを虐待し死なせてしまったという事件がありました。しかし、法廷でその親は、自分の子どもを愛していたと語りました。その親にとって、傍から見るとおかしいと思える「虐待する」という事が愛の表現方法だったのです。その親もまた虐待されて育ちました。それが愛だと信じていたのかもしれない。

愛とは受けたように与えてしまうものなのではないかと思うのです。だからこそ、自分の経験やさ



基督聖協団熊本教会
佐藤 龍平

じ加減、その時の気分です。愛するのではなく、しっかりとした愛の基準が必要なのです。何より、自分が揺るがない愛で愛されているという経験が必要なのです。その愛こそ「神の愛」であると僕は確信しています。

「隣人を自分のように愛しなさい」とあります。あなたは、揺るがない愛をもって自分を愛しているでしょうか。自分を愛する愛は家族や友人という隣人に向かいます。私たちは自分自身の過去も現在も、何をしてきたのか、されてきたのかを知っています。自分のすべてを受け入れて愛することは難しいことかもしれません。しかし、神様はそんな私たちのすべてを揺るがない愛で無条件に愛してくださっています。その愛の証がイエス様の十字架です。

神様は御子を十字架にかけられるほどにあなたを愛しておられます。あなたは正しい愛で愛されています。そして、その愛の基準をもって愛する者であるという事を知っていただきたいのです。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡 成也 編集人／富森 靖博
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2016年度基本聖句

コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章11節
思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。